

# ローカルエネルギーをローカルコミュニティで活かすしくみづくり

## ～あいとうふくしモールでの市民共同発電所の取組～

○西村俊昭(株式会社農楽)\*、野村正次(あいとうふくしモール運営委員会)

キーワード：太陽光発電、自然エネルギー、地域商品券、地産地消、コミュニティ

### 1. はじめに

安心安全で暮らし続けられる地域とは、私たちの暮らしを支える「食」「エネルギー」「ケア」が自給できる地域である。その大きな柱のひとつが「エネルギー」である。そこで、古来より地域に恵みを与え続けてきた太陽光を活かして、自分たちの使うエネルギーを自らつくり、それを地域経済に還元して、持続可能な地域の基盤をつくろうというのがこの活動のきっかけであった。

本稿では、全国各地で実施されている大手資本による固定価格買取制度を活用した発電事業の問題点を指摘するとともに、この解決策のひとつとなる筆者が企画に係った「あいとうふくしモール」での市民共同発電所の取組より、ローカルエネルギーをローカルコミュニティで活かすしくみづくりを提案する。

### 2. 大手資本による固定価格買取制度を活用した太陽光発電事業の問題点

地域に偏在する自然エネルギーは、地域に帰属する資源であり、この資源を活用して得られた利益は、農業と同じように、地域が受益者と成るべきと考える。このような視点から現在各地で行われている大手資本による固定価格買取制度を活用した発電事業を見ると、大半は都市部の大手資本が地代の安い地方地域に場所を借りて発電事業を行い、大半の利益は都市部に流れて行くという構図が浮かび上がる。

### 3. 自然エネルギーは地域のものという再認識

そもそも、地域の自然エネルギー資源は、古来、自然の恵みとして、地域の人々によって大切に利用されてきた。化石燃料等のふんだんな供給のおかげでその価値が忘れられてしまったのは、わずかにこの50年ほどのことである。いま、地域の人々は、自然エネルギー資源の価値をあらためて自覚し、これからの生活に積極的に生かしていかなければなりません。エネルギーをめぐる議論がかつてない重要な時期に差し掛かっているいま、「自然エネルギーは、地域の人々の主体的な参加の下に、地域の豊かな生活に資する形で利用すべきものである。」ということ、再確認することがきわめて重要になっている。そこからはじめてこそ、自然エネルギー利用の大幅増を、皆が納得できるやりかたで、早期に実現できると考える。<sup>1)</sup>

このような理念をいち早く宣言した自治体がある滋賀県湖南市の「湖南市地域自然エネルギー基本条例」(平成24年9月)である。参考にこの条例の基本理念を紹介する。1) 市、事業者及び市民は、相互に協力して、自然エネルギーの積極的な活用に努めるものとする。2) 地域に存在する自然エネルギーは、地域固有の資源であり、経済性に配慮しつつその活用を図るものとする。3) 地域に存在する自然エネルギーは、地域に根ざした主体が、地域の発展に資するように活用するものとする。4) 地域に存在する自然エネルギーの活用にあたっては、地域ごとの自然条件に合わせた持続性のある活用法に努め、地域内での公平性及び他者への影響に十分配慮するものとする。<sup>2)</sup>

### 4. あいとうふくしモール型市民共同発電

#### (1) あいとうふくしモール

あいとうふくしモールとは、障害があっても、認知症があっても、どのような症状になっても安心して暮らせる拠点づくりに取り組むプロジェクトです。「モール」とは様々な機能を有する福祉サービス事業所が、ショッピングモールのように軒を並べるイメージで、地域の広範なケアのニーズに24時間対応していこうとすることから名付けたものです。

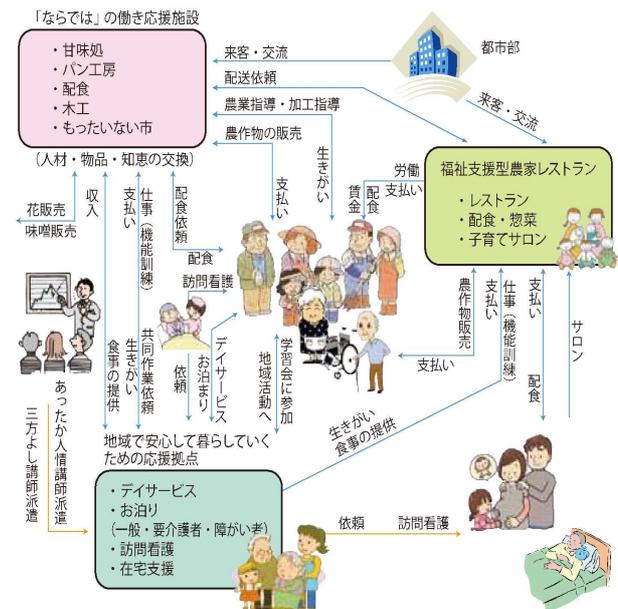


図-1 あいとうふくしモール構想図

出典：太田清蔵、福祉モールの夢をカタチに

あいとうふくしモールには、知的障がい者の働く「ならではの働き応援施設（田園カフェこむぎ）」、介護を必要とする方々とその家族の暮らしを応援する「地域で安心して暮らしていくための応援拠点（結の家）」、安心安全な素材にこだわり地域のお母さんが心をこめて作る「福祉支援型農家レストラン（ファームキッチン野菜花）」で構成されている。

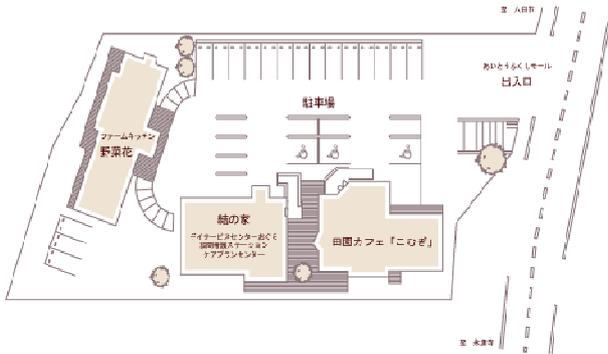


図-2 あいとうふくしモール位置図

出典：あいとうふくしモールHP

(2) あいとうふくしモール型市民共同発電の考え方

いつまでも安心して暮らしていくためには、「食」と「エネルギー」が自給でき、「ケア」の充実が必要である。モール内には、ケアの充足を図り、地域食材を提供する施設がある。ここにエネルギーの自給を図れば、まさに安心の拠点ができる。エネルギーの自給のため、各施設には薪ストーブを設置して、里山保全活動から生まれた薪の活用を併せて行うことと、各施設の屋根に太陽光発電の設置を行った。太陽光発電の設置にあたっては、多くの会員を募り、末永くモールとの縁を結んで頂くために、市民共同発電所方式とした。 あいとうふくしモール型市民共同発電所の考え方は以下のとおりである。

- ◇ 売電益の使い方：売電額から2割分をあいとうふくしモール運営委員会に寄付し、残額から太陽光発電施設の損害保険料や機器の更新積立金、点検費、事務経費の1割分を除き、残りを会員に均等に分配する。
- ◇ 地域商品券による参加者への分配：あいとうふくしモール運営委員会は、毎年1回売電額を精算し、会員に分配する。分配は市と経済団体が進める三方よし商品券とし、太陽から生まれた収益を地域経済に還元できるしくみとする。
- ◇ 寄付金の活用：あいとうふくしモール運営委員会は、寄付金を地域福祉の人材育成や地域貢献活動に活用する。このことで、地域活動を市民が支える継続的な資金調達を図る。
- ◇ 公開：事業の収支や寄付金の活動内容、収支は、毎年組合の総会をし、会員に報告する。

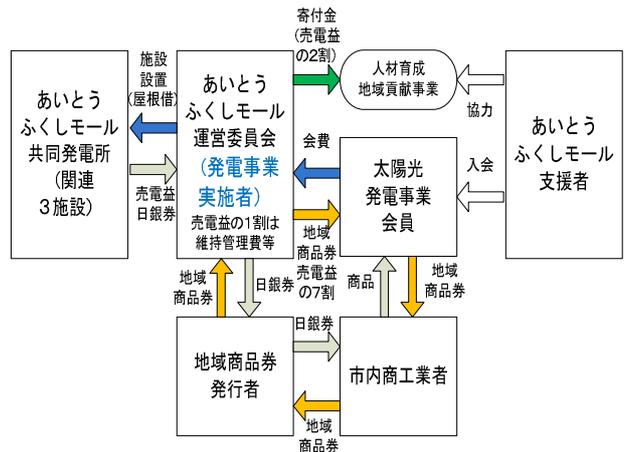


図-1 あいとうふくしモール市民共同発電所のしくみ

(3) 会員募集結果と設置状況

以上のような考え方のもと実施した会員募集の結果と設置状況は、以下のとおりとなった。

- ◇ 募集期間：2012年10月20日～12月25日
- ◇ 募集方法：3事業所を通じて支援者に広報
- ◇ 説明会を3回開催
- ◇ 会員加入状況
  - ①加入者数 63名
  - ②会費 11,000,000円 (110口)
- ◇ 1口～10口まで
- ◇ 設置容量 32.26kW
  - (田園カフェこむぎ 5.7 kW、結の家 5.7 kW、ファームキッチン野菜花 22.86 kW)

5. おわりに

今後、東近江市では旧市町村単位にふくしモールを推進していく計画であり、あいとうふくしモール市民共同発電所を運営することで、推進運営上の問題点を明らかにし解決していくとともに、この経験を活かし他地区モールでの市民共同発電所の支援を行っていく予定である。

最後に、あいとうふくしモール型市民共同発電所がローカルエネルギーをローカルコミュニティで活かすしくみづくりに寄与できれば幸いである。

引用参考文献

- 1) (独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター：地域からエネルギーの未来を創る緊急シンポジウム「自然エネルギーは地域のもの」 趣旨、2012.6
- 2) 湖南省：湖南省地域自然エネルギー基本条例 基本理念、2012.9
- 3) あいとうふくしモール運営委員会：エネルギーの自給にむけた取り組み、あいとうふくしモール～夢をカタチに・安心をカタチに～、19-23、2013